

これからの社会で求められる能力とは

開倫塾

塾長 林明夫

これからの社会で求められる能力とは何かについて、中学校や高校の総合学習の時間でお話することが多い。私は三つあると思う。

現代は知識が基盤になった社会なので、学校で学習するような知識と、インターネットなどで得られる情報、自分のもつ専門的な技術を上手に組み合わせる能力が第一。

グローバル化社会では、国や民族、言語、習慣、価値観などが自分と異なる多様な集団でトラブルに陥ることなく交流できる能力が第二。

次々と問題が発生し、何が起きてもおかしくない世の中で、高い志を持続しながら、自律的に活動する能力が第三。

これら三つの能力には前提が二つある。その第一は、学んだことを自分のものとして定着させる学習の方法を身につけていることだ。学力の高い人に共通しているのは、わからない語句に出合ったら気持ちが悪いと思い、辞書で調べ、その意味をメモし、繰り返し読み直して、自分で使える語句の数、つまり語彙を増やすことだ。

よく理解できた内容は、声を出して読む音読や書き取り、計算などの練習をよく身につくまで行い定着させている。練習は不可能を可能にするという慶應義塾の小泉信三先生の教えは、毎日の学習にもあてはまる。同時通訳の草分けであった国弘正雄先生は、中学校時代に英語の教科書を五百回以上音読して英語の基礎を築いたという。

第二は、読書による思慮深さを身につけていることだ。新聞を毎日しっかり読み、自分で考える力や批判的思考能力を身につけることも大事だ。

お話の中で一番強調するのは、目的をもって生きること、目的をもって勉強することだ。受験勉強は大事だが合格を目的にすると、進学した後、ボーッと過ごしてしまう。就活は大事だが就職のみを目的に勉強すると、すぐに辞めてしまう。何のために生きるのか、何のために進学するのか、何のために就職するのか、何のために仕事をするのか、古典をじっくりと読み込んで自分の力で考え抜くことが大事だ。

あきらめたらおしまい。一生勉強、一生青春。教育ある人とは社会に出てからも一生勉強し続ける人。健康第一。心の健康、身体の健康を大切になどとお伝えし、お話を終えることが多い。この六月も東京都内の公立中学校で二回お話を予定だ。

2012年5月20日記